

令和 6 年度第 9 回気仙沼市防災フォーラム 兼 東北大学災害科学国際研究所 第 37 回防災文化講演会を開催しました (2025/1/21)

テーマ：市民みんなで考える防災、気仙沼市
会場：気仙沼中央公民館（宮城県気仙沼市）

2025 年 1 月 21 日（火）、気仙沼中央公民館において、「令和 6 年度第 9 回気仙沼市防災フォーラム」が開催されました。本フォーラムは、気仙沼市と同教育委員会主催、当研究所、気仙沼 ESD/RCE 推進委員会共催、気仙沼市立小・中学校安全担当主幹教諭の皆様との企画・運営で毎年開催しており、「市民みんなで考える防災」をテーマに、学校、地域住民、企業で交流を図り、これからの防災計画、防災教育について学ぶ場となっています。

当研究所からは、森口周二准教授（計算安全工学研究分野）が講演し、佐藤翔輔准教授（防災社会推進分野）がファシリテーターを務めました。

今年度は、基調講演、中高生によるポスターセッション、パネルディスカッションの構成で行われました。基調講演では、森口准教授が「豪雨災害リスクと予防技術」の演題で講演し、3 回目となるポスターセッションでは、昨年より発表時間を大幅に引き伸ばし、各校、各企業独自の取り組みについての展示・発表を行いました。発表後の質疑応答では、地域住民から「自分達が行っている避難訓練がきちんと出来ているか再確認できた」等、自分達が日頃行っている防災について振り返る機会となっていた様子でした。

パネルディスカッションでは、佐藤准教授をファシリテーターとして「日常生活でできる豪雨災害への備え」をテーマに、学生・地域住民・企業・行政の方をパネラーに招き、意見交換が行われました。はじめに、パネラーの方からの基調講演に対する質問・感想を発表後、森口周二准教授がそれぞれの質問に回答しました。「正直、豪雨のことは意識していなかった」「日常の環境にひとりひとりが関心を持つことが必要。それぞれが意識を高め、得た知識を伝えていく」等、防災への取り組みや意識、地域全体のつながりの大切さを再確認できる場となりました。

当日は、市内の中高生をはじめ、学校関係者や自主防災組織等地域住民約 200 名が参加し、盛会のうちに終わりました。



基調講演
森口周二准教授



ポスターセッション①
中高生による発表



ポスターセッション②
企業による展示



パネルディスカッション①
佐藤翔輔准教授



パネルディスカッション②
森口周二准教授



パネルディスカッション③
会場の様子